

最近受け手のSさんから聞いた話。ある日の電車の中で、後ろに立っている二人の高校生らしき子供の話を聞こえた。

## 一期一会

A「まだ彼女と付き合っている?」  
B「もう、別れた」  
A「あつくるしいって……？」  
A「ああ、そういうことか分かった」



（蝶）

残念ながらB君のあつくるしい中身は聞き取れなかつた。しかし、Sさんは「あつくるしいって：？」と聞けるだろうかと自問自答した。「あつくるしい」を自分なりにイメージして、相手の話を深く正確に聴くチャンスを逃してしまったのではないかと。

\*\*\* Vol. 1 \*\*\*

## 一期一会

Mさんは中3の娘が部活のことで悩んでいるらしいと感じていた。「休もうかな……」とか「やめたいな……」と時々言っていた。それでも普段通り通学する姿をみて安心していた。休休みのある日、「暑い！」とボタンをはずした娘の胸にひとすじの傷を見つけた。Mさんは思わずブラウスをはぎ取つた。娘の肌には無数のためらい傷が刻まれていた。

Mさんは言葉にならない「う

おうー」という、うめき声をあげ、涙があふれた。娘を抱きしめて慟哭した。娘も母にすがり泣いた。二人は子どものように大声で泣き続けた。



電話の声に耳をすます受け手

\*\*\* Vol. 2 \*\*\*

## 一期一会

あれから娘はふつ切れたようになつた。部活も辞めずに中学を卒業した。

（蝶）

一年前のこと。宿泊研修から帰ったMさんは疲れでぐろんと横になつていて。そへべに連れられて子供達が帰つてきた。三歳の末娘がそつてくれた。Mさんは薄目を開けて黙つて娘を見た。すると娘は「どういたし

まして」と言つた。  
「まだありがとうと言つてないよ」と言うと「でも聞こえたよ」と応えたという。

\*\*\* Vol. 3 \*\*\*

## 一期一会

親が子を想うのと、子が親を想うのとではどちらが強いのだろう。「いい子だったら」と親は子に条件をつけるが、「あなたがいい親だから」と子は言わない。無条件の愛情という点では子の方が純粋といえんだろうか。

9歳と5歳の兄妹はそれぞれ学校と保育園で、丁度同じ頃合唱祭があつた。一人とも先生から同じような注意を受けて壇上にあがつた。すなわち「壇上ではまつすぐ前を見ること。決して親を探してキヨロキヨ

口してはいけません!」と。

兄は壇にあがる時、多くの父母が立つているのが目に入つた。足の悪い母が立つていたらどうしよう：別日の日、妹は先生に言われた通り渡した。そして座つている母を見つけて安堵し合唱に専念した。

別の日、妹は先生に言われた通り壇上では、前方二階席に視線を預けたまま微動だにせず、大きく口を開けて合唱を終えた。しかし、の子は朝保育園に行く前に「ママの方を見ないけど、きらいだからじゃないね」と言い置いたそうだ。

子が親を想う気持ちもそれぞれである。

（蝶）

\*\*\* Vol. 5 \*\*\*